

境港港湾脱炭素化推進協議会（第2回）開催概要

○脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化等を通じて「カーボンニュートラルポート（CNP）」を形成し、国全体（背後圏域）の脱炭素社会の実現に貢献するため、令和4年度から港湾関係者が参画する協議会を設置し、港湾脱炭素化推進計画の策定へ向けた検討を進めています。

※令和4年12月の港湾法改正を受け、今回より『境港港湾脱炭素化推進協議会』として開催。

※前回までは『境港カーボンニュートラルポート形成協議会』として2回開催しており、通算では4回目の会議。

■開催概要■

1 日 時： 令和6年3月18日（月） 14:00～15:30

2 場 所： みなとテラス 大会議室

3 構 成 員： 別紙1 構成員 参照

4 議 事： 別紙2 議事次第 参照

5 議事概要

- 事務局から、前回までの振り返り（決定事項、第1回境港港湾脱炭素化推進協議会で受けた意見とその対応）、境港の目指すべき方向性、港湾脱炭素化促進事業の方向性、港湾脱炭素化促進事業の方向性のイメージについて説明。
- 「他港の港湾脱炭素化推進計画の作成事例」及び「脱炭素に向けた国の支援メニュー」について情報提供。
- カーボンニュートラルへ向けた港湾脱炭素化促進事業の方向性について、構成員、オブザーバーとの意見交換を行った。

6 合意事項

- 境港の目指す方向性
- 港湾脱炭素化促進事業の方向性
 - ①温室効果ガスの排出量の削減並びに吸収作用の保全及び強化に関する事業
 - ②港湾・臨海部の脱炭素化に貢献する事業

7 主な意見

- ・バイオ燃料については、港湾以外のところでも脱炭素に関して生みの苦しみとなっている。一方で、ディーゼル油に比較的近いものとして、脱炭素化を図ることができるため、バイオ燃料の需要が高まっている。境港においても、バイオ燃料の将来の位置づけを期待する。
- ・境港の目指す方向性として、「物流・産業」を分けた方が、メッセージ性は強いのではないかと。物流は限られた会社のみであり、産業は商工会議所全体が関わってくるため、意識が違ってくると思う。
- ・境港のクルーズ船は他港に誇れる強みだと思うが、来航客にCNPを宣伝することで資金を獲得し、オフセットしていくこともできるのではないかと。



(別紙1)

境港港湾脱炭素化推進協議会 構成員

(敬称略、順不同)

役 割	区 分	企業名等
構 成 員	有 識 者	公立鳥取環境大学
構 成 員	関 係 企 業	NX境港海陸株式会社
構 成 員	関 係 企 業	株式会社上組
構 成 員	関 係 企 業	三光株式会社
構 成 員	関 係 企 業	株式会社日新
構 成 員	関 係 企 業	合同会社 境港エネルギーパワー
構 成 員	関 係 企 業	東西オイルターミナル株式会社
構 成 員	関 係 企 業	隠岐汽船株式会社
構 成 員	関 係 団 体	境港商工会議所
構 成 員	関 係 団 体	松江商工会議所
構 成 員	関 係 団 体	まつえ北商工会
構 成 員	関 係 行 政 機 関	国土交通省 中国地方整備局 境港湾・空港整備事務所
構 成 員	関 係 行 政 機 関	境港市
構 成 員	関 係 行 政 機 関	松江市
オ ブ ザ ー バ ー	民 間 企 業	ローカルエナジー株式会社
オ ブ ザ ー バ ー	国	環境省 中国四国地方環境事務所
オ ブ ザ ー バ ー	国	国土交通省 中国運輸局
オ ブ ザ ー バ ー	地 方 公 共 団 体	鳥取県
オ ブ ザ ー バ ー	地 方 公 共 団 体	島根県
事 務 局	港 湾 管 理 者	境港管理組合

境港港湾脱炭素化推進協議会（第2回）

日時：令和6年3月18日（月）14時00分～

場所：みなとテラス 大会議室

（鳥取県境港市上道町3000）

議 事 次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 議 事

- 1) 前回協議会までの振り返り (資料1)
- 2) 境港港湾脱炭素化推進計画の検討 (")
- 3) 今後の検討の進め方 (")
- 4) 意見交換

4 その他

5 閉 会